

初期仏典における (a-)parigraha- について

稲 葉 維 摩

はじめに 初期仏典では所有しないこと（無所有）がしばしば言及される。しかし、その表現方法は様々であり、具体的な意味内容や位置づけは明確ではない。本稿は所有に関わる語として (a-)parigraha- (Pā. pariggaha-) を選択し、その意味内容と位置づけを明確にするため、古層韻文經典と四ニカーヤにおける用例を検討する。

1. 語形と辞書における意味を確認する¹⁾。接頭辞 pári 「周囲に、ぐるりと、回って rings, ringsum, um, herum.」, 語根 grabhⁱ (〜grahⁱ) (gr̥bhñāti) 「つかむ, 取る, 捕まえる ergreifen, nehmen, fassen, festhalten.」, 従って, pari-grabhⁱ 「取り囲む」等を基本的な意味とする²⁾。Pā. parig(g)añhā-ti について, PED. は「1) 抱く, つかむ, 手に入れる to embrace, seize, take possession of, hold, take up. 2) 捕まえる, 捉える to catch, grasp. 3) 歩き回る to go all round.」の意味をあげる。動詞形は韻文經典に現れない³⁾。

名詞 Pā. pariggaha- について, PED. は「1) 取り囲むこと wrapping round, enclosing. 2) 手に入れること, 獲得 taking up, seizing up, acquiring, acquisition. 3) 所有物, 財産 belongings, property. 4) 妻 a wife. 5) 優美, 上品, 好意 grace, favour.」の意味をあげる。動作と動作の結果, 手に入れたものを意味する⁴⁾。否定辞 a- を付加した a-pariggaha- について, CPD. は「1) 所有物 (利己心) を持たない without possession (egoism). 2) 妻を持たない, 未婚の without wife, unmarried.」の意味をあげる。

2. 1. pariggaha- の用例を確認する。pariggaha- は「所有物, 財産, 取得物」の総称として用いられる⁵⁾。また, 女性の既婚・未婚の状態を a-/sa-pariggaha- で表現する例がある。この場合「男性に妻がいる」のではなく, 「女性に夫がいる」という視点で用いられる⁶⁾。一例として⁷⁾, Ja. VI, 348: atha rājā uyyāne kīlitvā hatthikkhandhe nisinno sāyaṇhasamaye nagaraṃ pavisanto taṃ tattha disvā paṭibaddhacitto hutvā sapariggahā apariggahā ti pucchāpesi. sā atthi me sāmi kuladattiko pati, so pana

(236)

初期仏典における (a-)parigraha- について (稲 葉)

mam idha nisidāpetvā chaḍḍetvā palāto ti āha. (さて、王は遊園で遊んで後、象の肩に坐って、夕方の時に都城に入っている時、彼女をそこで見て後、心が結びつけられた者となって「sa-pariggaha- か、a-pariggaha- か」と問わせた。彼女は「私には所有者、家系によって与えられた家長がいます。けれども彼は私をここに坐らせて後、捨てて、逃げました」と言った)。

2. 2. pariggaha- と mama 派生語との間に、深い関係が読み取れる。Sn. 805, 809 では、mamāyita- (一人称代名詞属格単数 mama に基づく denominative mamāya-ti の過去分詞) と pariggaha- の言い換えが確認できる。一例として、Sn. 805: socanti janā mamāyite, na hi santi niccā pariggahā / vinābhāvasantam ev' idaṃ, iti disvā nāgāram āvase // (人々は執着したものについて悩んでいる。というのも、常住な pariggaha- は存在しないから。ここには、離れることが存在しているだけだと見て後、家に住むべきではない)。Sn. 872 では、pariggaha- と mamatta- (一人称代名詞属格単数 mama に -tva- を付加した抽象名詞 [AiGr. III, 442]) の原因をどちらも icchā-「願望」とする⁸⁾。さらに、a-/sa-pariggaha- と a-/sa-mama- が並出する例がある⁹⁾。

3. 1. pariggaha- の位置づけを検討する。韻文経典は、出家者が pariggaha- に関わらないことを積極的に示している。Sn. 393 によって、pariggaha- のないことが出家者を在家者から区別する重要な特徴であり、出家者のあり方の一つであると理解できる。

gahaṭṭhavattam pana vo vadāmi, yathākaro sāvako sādhu hoti /

na h' eso labbhā sapariggahena, phassetum yo kevalo bhikkhudhammo // (Sn. 393)

また、在家者の振る舞いを君たちに説く。その通りに行う者は善き弟子となる。

というのも、sa-pariggaha- である者によって¹⁰⁾、完全な比丘のダルマ、これは触れることができないから。

同様の例として、pariggaha- は現れないが、Sn. 220 は妻があることと a-mama- とを対比する。pariggaha- の性質は無常であり、それに執着することで人は苦しむ¹¹⁾。従って、Sn. 805 では無常である pariggaha- に関連して、出家を勧めている。また、ムニや如来は pariggaha- に関与しない¹²⁾。Ja. IV, 372, v. 286 では、pariggaha- を持つ者は施物を与えることにふさわしいとされる。

3. 2. 四ニカーヤにおいて、pariggaha- がないという特徴は出家者以外の者にまで拡張される。DN. III, 199, AN. IV, 396 では、a-mama-, a-pariggaha- がウッタラクルの人々の特徴として現れる。一例として、DN. III, 199: yena uttarakurū rammā, mahāneru sudassano / manussā tattha jāyanti, amamā apariggahā // (喜ばしいウッタラク

ル、見栄えよいマハーネール、そこに人間達が a-mama- として、a-pariggaha- として生まれる；文頭の yena (... tattha) は、場所を示す yena (... tena / tad) と考えられる。AN. IV, 396 は続いて、ジャンプ州の人々がウッタラクルと三十三天を凌いでいる項目を示すがそれらの項目は仏教の修行に関わるものであるため、ここに、ジャンプ州が修行に適切であるという思想¹³⁾を読み取ることができるだろう。これ以降、a-pariggaha- はウッタラクルの人々の特徴として認識されていたと考えられる¹⁴⁾。DN. I, 247ff では、梵天と比丘が a-pariggaha- であり、三明を持つブラーフマナ達 (tevijjā brāhmaṇā [nom. pl.]) は sa-pariggaha- であるという¹⁵⁾。

まとめ 以上をまとめる。pariggaha- は「所有物、財産；妻である状態；手に入れること、取得」を意味する。いずれも動詞「取り囲む」の意味から派生し、手に入れる動作と動作の結果、手に入れたものを意味している。mama 派生語との言い換えや並出の用例から、両語の深い関係が認められた。これに関しては、mama 派生語の検討を必要とする。

pariggaha- の位置づけとして、韻文經典は、無常である pariggaha- に出家者が関わらないことを積極的に示していた。しかし四ニカーヤでは、pariggaha- のないこと (a-pariggaha-) が出家者のみならず、むしろ梵天やウッタラクルの人々の特徴とされており、重要な事柄として扱われていない。以上の検討から、韻文經典と四ニカーヤの間で、所有しないこと（無所有）に関する位置づけの相違が明らかになった。今後の課題は、仏教外のテキストにおける parigraha- の検討、mama 派生語の検討である。

1) M. Mayrhofer, *Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen*, 3 Bde., Heidelberg 1986–2001. s.vv. 等参照。 2) 詳細には PW. 参照。 3) 動詞の例として、DN. II,

87: yasmim padese mahesakkhā devatā vatthūni parigaṇhanti (そこでは、偉大な力を持つ神格達が諸々の土地を所有している…。)。Ja. 散文では「(物事や状況などを) 把握する」の意味も頻繁に現れる。例えば、Ja. I, 69: bodhisatto pi kho tasmim rattibhāge pañca mahāsupine disvā parigaṇhanto nissamsayenāhaṃ buddho ajja bhavissāmīti katasannitthāno ... (菩薩はまた、その夜間に五つの偉大な夢を見て後、把握して「疑いなく、私は今日、ブッダになろう」と決定をして…)。 4) 詳細には PW. 参照。 5) SN. III.2.10 [vol. I, p. 93],

Ja. IV, 371, v. 280; V, 448, v. 199; VI, 258。 6) Ja. IV, 190; VI, 364。 7) 一方で、過去分詞形が用いられる場合もある。Ja. I, 421: so tassā apariggahitabhāvaṃ ñatvā ānāpetvā aggamahesitthānaṃ adāsi。 8) 四ニカーヤにも pariggaha- を縁起支として示す箇所があるが、Sn. 872 と異なる説を示している。DN. II, 58f (= DN. III, 289, AN. IV, 400f): ...

ajjhosānaṃ paṭicca pariggaho pariggahaṃ paṭicca macchariyaṃ 9) Ja. IV, 372, v. 286; DN.

(238) 初期仏典における (a-)parigraha- について (稲 葉)

III, 199; AN. IV, 396. さらに, Mvu. III, 400: śrutvā sarvadharmam abhijñāya sāvadyam anavadyam ca sadevake loke / asamo*1 aparigraho siṣuddho anigho tāyi tam āha śrotriyaṃ ti // *1 fn. 1: B amamo° M agamo°. 10) 註釈 (Pj II. I, 376) は「土地や居住地を初めとする pariggaha-」と説明. 11) Sn. 805; SN. I.5.1 [vol. I, p. 32]; III.2.10 [vol. I, p. 93]; MN. I. 137. 12) Sn. 470, 779, 809. 13) ジャンプ州にのみブッダが現れることは, 菩薩の五大観察の中に明示される. Ja. I, 48-49 (= Sv. II, 428-430; Ps. IV, 171-173; Bv-a. 273; Ap-a. 53-54); G. P. Malalasekera, *Dictionary of Pāli Proper Names*, PTS 1938, *jambudīpa* s.v. 参照. 後の文献として『俱舍論』(P. Pradhan, *Abhidharma-koshaḥāṣya of Vasubandhu*, Patna 1967, p. 266) も参照. 14) G. P. Malalasekera, *ibid.*, *uttarakuru* s.v. 参照. さらに『俱舍論』(*ibid.* p. 252) 参照. 15) 註釈 (Sv. II, 404) は「女性という pariggaha-」と説明.

テキストは PTS 版を用い, 略号は *A Critical Pāli Dictionary* (CPD) に従った. 略号の後のローマ数字・アラビア数字は, 基本的に巻数・ページ数を意味する.

〈キーワード〉 初期仏教, パーリ語, parigraha-, 無所有

(大谷大学大学院)

新刊紹介

菅沼 晃・渡辺 章悟 監修

『ブッダを知る事典』

B6 版・350 頁・本体価格 4,200 円
校成出版・2011 年 9 月